

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

昨年度の会員構成から11名が退会している。このなかには本会に当初より30年以上継続して会員であり高齢による通院が不自由との理由もはいつている。このような退会は長寿の目的をある程度達してのことと考えれば私共としては大変嬉しいことである。検診項目の組合せは消化器と肺が最も多く87件中86名が男性であり、女性に比して肺への関心の強さを示している。翻って女性では消化器、子宮、乳房が78名でこれを軸として肺を選択するのは19名で肺のみ選ぶのは男女夫々16名と3名であって単独の検診項目を選ばれるのはかなりブランド銘を背負っていると奮起しなくてはならない。

表11は付加検診として尿、血液、心電図検査による異常所見の頻度であるが137名の被検者からは血中脂質異常は62%に、腎、泌尿器系については51.2%、心電図では41%にみられることは被検者の高齢化傾向によるものであろう。

消化器がん検診

がん検診としては胃X線検査、腹部超音波検査、便潜血反応があり、夫々、胃、食道、肝臓、胆嚢、膵、腎のがんに対して、また便潜血反応は大腸がんに対する一次検査の役割をもつ。本年度の消化器検査受診者は189名で男性88名、女性101名、このうち胃X線検査受診者は男性48名、女性52名、その中から要内視鏡精検の指示を受けた者は2名で実際に内視鏡検査を受けた。いずれもポリープのみであった(表1、2、3)。超音波検査は159名が受診し男性75名、女性84名でがん発見者はなかった。(表4)。大腸がん検診は151名が受診し要精検者は8名、このうち大腸ポリープ2名が他医療機関により発見されているが、がん発見はなかった。2名は精査勧告されたが未受診であった。他に2名が他医療機関にて主治医相談となっている(表5)。

肺がん検診

肺がん検診としては36名(正確には36件)の減少となっている。会員制であるために毎年度内の人数の把握がむずかしい点があることによる。表6の一次検査からの再検査は基本検査である単純撮影からの1名とCT検査によるものからの1名と計2名であるがその後の検査で特に病的診断ではなかった。

表7の喀痰細胞診については昨年度の通りにC判定はなく、またD、Eもなかった。因みにAは昨年度の3.54%より1.23%と減少している。表8は受診者の胸部X線所見上にもみる“常態”を示す。肺がん症例は0であるが最も多いのは所謂、治癒所見を含めて胸膜肥厚、癒着でついで肺線維化傾向を含む肺線維症で当検診の高年齢化の影響もみられる。

その他の項目には心・血管系の動脈硬化性変化によるものや骨格系の何らかの変化、異常などが含まれ元来、肺がんとは無関係と考えられる最も多い胸膜の炎症性変化などは記載し把握してその後の変化に対応し得ると考えている。

乳がん検診

乳がん検診は担当者が変わったときより、現行の標準的対策型検診より更に精度を上げて、40歳以上は視触診に加えて隔年にマンモグラフィ(以下MMG)2方向(MLO、CC)とその間の年には超音波(以下US)を併用する方法を原則としてきた。それまで逐年MMG3方向併用は被爆量が多く、高濃度型が多い日本人には有効性が高いと思われない。

USを間に挟む方法が両者の欠点を補い、より合理的と思われる。無論年齢と個人の適応も考慮し選択可能とし、読影有資格者によるダブルチェックされ、USは担当者自身が行い、穿刺細胞診も自身が行うが近年CNBその他の穿刺組織診が盛んだが、当所は施設的に困難なので、他の施設にお願いしている。受診者の動向はほとんど変わらないが、今年当検診始まって以来2人の発見乳がんが出た。1例目はMMG上の石灰化像で癌が疑われ、他施設に依頼しステレオマンモトームを行って診断されDCISで乳房温存手術が行われ、n0であった。2例目はUSで0.5cmの皮下腫瘍でのMMGのML0でU領域のカテゴリ3のFADで穿刺細胞診で悪性疑いとなり、他施設で乳房温存手術を行い径0.4cmの粘液癌でn0であって当検診の役割がはたされた。これまで当検診はじまって以来3例が発見されたことになる。MMGとUSの隔年併用検診の有効性が示された。

子宮がん検診

平成25年度のACクラブの女性受診者数は110名であり、その中で子宮頸がん検診受診者は61名(55.5%)、子宮体がん検診受診者は54名(49.1%)であった。子宮体がん検診は、すべて子宮頸がん検診との併用で受診されることから、ACクラブの女性会員は一般の施設検診者と異なり、高率に子宮体がん検診を希望していることが推察される。年齢的に、ACクラブの女性会員のほうが、一般の施設検診者より高齢の方が多い(60歳代28.2%、70歳代46.4%、80歳代11.8%)こともその理由の一つと思われる。

平成25年度の検診者は、子宮頸がん検診で2名、体がん検診で1名が要精検と判定されたが、結果的にがんは発見されなかったことは、何はともあれ喜ばしい結果と言える。

平成22年度より、希望で子宮頸がんに対するHPVテスト(ヒトパピローマウイルステスト; Hybrid capture II法)が受けられるようになった。実際にACクラブでは平成25年度は58人にHPVテストが施行され、57名陰性で、1名のみ陽性であった。陽性が出た場合には、二次検診として精密検査(コロポスコピー、組織診断)が施行されている。

一つ気になることは、平成25年度に新入会された人は0であり、受診者数は前年度(平成24年度110名)と全く変わらなかった。増加に向けてのさらなる努力が必要と思われる。

関係の集計表は107頁に掲載